

2013年4月26日(金)

北九州市立大学都市政策研究所 研究報告会

北九州における“集客”の現状と課題

～ B-1 グランプリ、ギラヴァンツ北九州 ～

北九州市立大学 都市政策研究所 准教授
南 博

minami@kitakyu-u.ac.jp

報告の構成

1. はじめに（研究の目的など）
2. **B-1グランプリ in 北九州の集客に関する研究**
 - （1）来場者の評価
 - （2）開催に伴う北九州市内への経済波及効果
3. **ギラヴァンツ北九州の集客に関する研究（2012年度）**
 - （1）スタジアム観戦者調査（2012年10月実施）
 - （2）市民意識調査（2013年3月実施）
4. おわりに

1. はじめに（研究の目的など）

- 北九州市は、様々な形で「まちのにぎわいづくり」を推進中。各種集客イベントも、その柱の一つ。

集客

市外からの集客（交流人口増）

- ・ヒト、カネが流入 → **経済効果**！
- ・市民との交流による社会の活性化
- ・北九州の魅力が全国(全世界)に拡散 など

市内からの集客

- ・経済の域内循環（経済効果）
- ・社会の活性化(**市民の地域愛醸成**、コミュニケーション活発化など) など

+ イベント準備の過程や開催後の多様な副次的効果

- 人口減少局面の北九州市にとって、重要な都市政策。
→ 地域社会、地域経済の活性化³

- 「まちのにぎわいづくり」に際しては、**北九州にある地域資源**を効果的に活用することが不可欠。
 - 本研究所では、2008年度からギラヴァンツ北九州（ニューウェーブ北九州）について「地域資源」として着目し、研究。
- 集客に関するイベント等の開催経験を北九州にとっての財産としていくためには、「集客された人々」の実態や、感想の把握・分析、各種効果の定量的測定が必要。
 - **それらを踏まえ、次の事業・政策を展開することが必要**

研究目的

- 永続的な地域資源である**ギラヴァンツ北九州**、2012年度の巨大集客イベントである**B-1グランプリ in 北九州**を、**今後の北九州のまちづくりに活かしていくため**、この2つの集客の実態・課題を明らかにする。

2. B-1グランプリ in 北九州の集客に関する研究



2つの内容で構成

- 来場者アンケート結果の分析を行う「B-1グランプリin北九州への**来場者の評価**」
- 来場者アンケートの結果や各種データに基づいて推計する「B-1グランプリin北九州**開催に伴う北九州市内への経済波及効果**」

※ これらの内容は、2013年2月26日のB-1グランプリin北九州実行委員会において報告・公表済み。

参考) B-1グランプリの理念等

- 「B-1 グランプリ」は、一般社団法人B級ご当地グルメでまちおこし団体連絡協議会（通称：愛Bリーグ）の登録商標
- 愛Bリーグ専務理事 俵慎一氏の語る、開催理念：

「B-1 グランプリは“グルメイベント”ではない。食べ物を提供するが、食べ物だけ売るのではなく、まちを売る“まちおこしイベント”である。

通常のグルメイベントでは“出店者”は飲食店や企業であるのに対し、**B-1 グランプリの“出展者”はまちおこしに取り組むボランティアが中心**であり、飲食店や企業は“出店”することはできない。

またB-1 グランプリは集客を目的としたイベントではなく、**まちおこしのお披露目の場**として現地（各出展者の地元）に行ってもらうための壮大な仕掛けである。」

B-1グランプリ in 北九州の開催概要

※ イベントへの集客が目的とはされていないが、大会開催地への「にぎわい創出」効果が大きくなるような運営上の工夫実施（会場をJR小倉駅を挟んで2カ所に分散配置し、駅周辺の商業機能集積地を多くの人が行き通り）

主催		B-1グランプリ in 北九州実行委員会、 一般社団法人B級ご当地グルメでまちおこし団体連絡協議会（愛Bリーグ）
開催日時		2012年10月20日（土）、21日（日） 各10:00～16:00（開会式・閉会式除く）
会場		北九州市小倉北区中心部（小倉駅から徒歩5～15分圏内）の2会場 ・ リバーサイド会場（勝山公園）、 ・ シーサイド会場（あさの汐風公園、西日本総合展示場）
出展団体		63団体（リバーサイド会場34団体、シーサイド会場29団体） 各団体とも1食300～500円でB級ご当地グルメを提供
入場方法		入場無料 ※料理購入にはイベントチケット（一冊1,000円。100円券10枚綴）が必要。チケットは大会当日から11月4日まで北九州市全域の登録店や文化・観光施設で利用可能。
同時開催		「魅力発信！北九州」フェア（北九州市制50周年関連事業）※北九州市役所周辺で開催
開催結果	天候	10月20日（土）：晴れ、最高気温22.6℃ 21日（日）：晴れ、最高気温25.9℃
	来場者数	主催者発表 61.0万人 ※日別来場者数：20日（土）21.8万人、21日（日）39.2万人
	チケット	イベントチケット販売総数205,274冊
	スタッフ	ボランティアスタッフ2,189人、市職員スタッフ530人、警備スタッフ772人 など

来場者アンケート 実施概要

調査体制	・ 調査主体： B-1グランプリin北九州実行委員会事務局 ・ 調査票設計、現地調査統括、集計・分析： 北九州市立大 都市政策研究所 ・ 調査員： ボランティア（福岡ひびき信用金庫職員）
実施日時	回答者に偏りが出ないように、時間帯を分散して実施した。 2012年10月20日（土） 12:00～13:00、14:00～15:00 10月21日（日） 11:00～12:00、13:00～14:00
実施場所	リバーサイド会場全域、シーサイド会場全域
調査対象	B-1グランプリin北九州の会場内で飲食をしている、概ね18歳以上（目視で判断）の一般来場者
調査方法	来場者に対する質問紙調査とした。具体的には、調査員が回答依頼を口頭で行い、承諾を得た場合は調査票と筆記用具を渡し、回答者が記入後に回収した。 ○ 回答者に偏りができるだけ出ないように、2会場とも20ブロックずつに分け、各ブロック担当の調査員が来場者に対し無作為に依頼。 ○ 非常に混雑した会場での調査実施となるため、混乱を避けるために原則として座って食事を行っている来場者を対象とした。 ※ 有効回答者への謝礼は、過去のイベントで使用した竹箸を用いて北九州エコタウンの企業がリサイクル処理した「竹炭」とした。
配布回収状況	配布数1,600、有効回収数1,600 （回収率100%） ※原則として調査実施時間1時間あたり200サンプル／会場ずつ配布回収

(1) 来場者の評価

① 回答者の属性

- 女性 6 割、男性 4 割
 - 20代～60代まで大差無く、幅広い世代が来場
 - 6 割が北九州市民
→ 市民へ楽しみを提供
- 比率は相対的に低いものの、人数としてはかなり多くの市外からの来場者
→ 広く楽しみを提供

居住地	比率
北九州市	60.8%
福岡県内 (北九州市以外)	23.3%
福岡市	8.7%
京築	4.1%
中遠・直鞍	4.1%
その他	6.4%
福岡県以外	15.6%
北海道・東北	0.2%
関東	1.6%
中部	0.7%
近畿	1.3%
中国	6.9%
四国	0.5%
九州	4.3%
※市町村名無回答	0.1%
無回答	0.4%
合計	100.0%

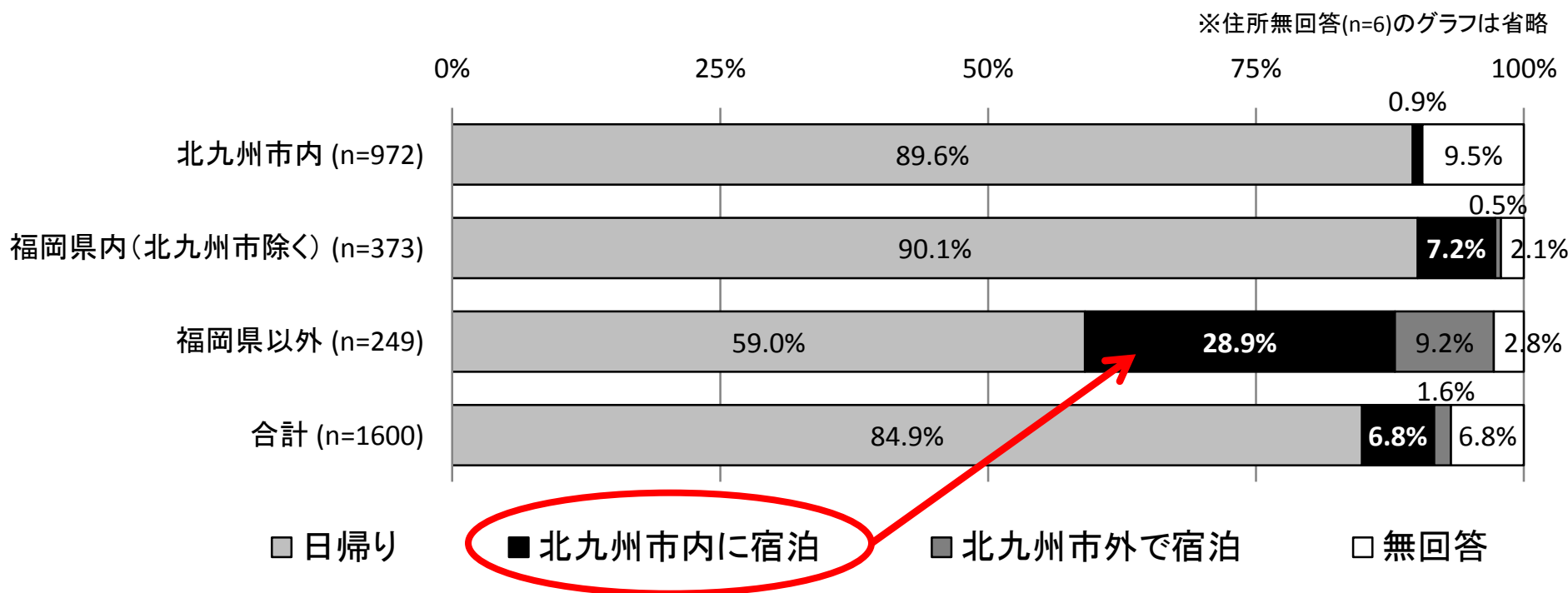
37万人

14万人

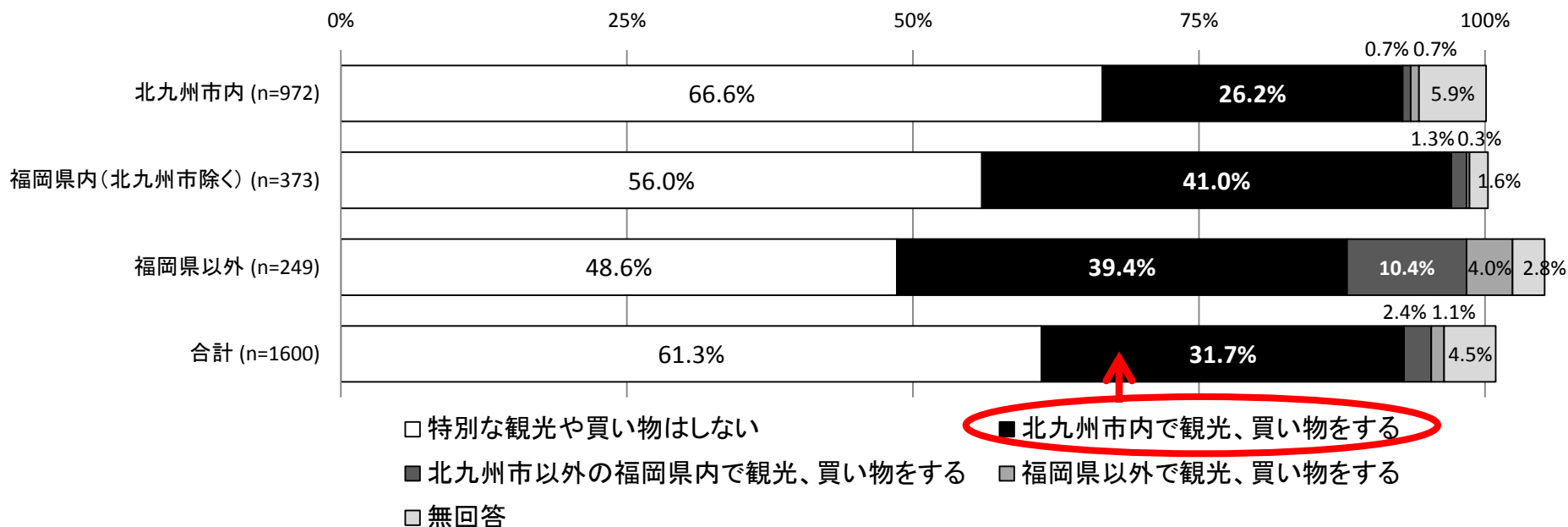
10万人

② 来場に際しての行動状況

- 「1日のみ参加（予定含む）」が8割
- 来場に伴う宿泊： 県外客の場合、市内宿泊3割



- 来場に伴う観光、買い物： 市外からの来場者による消費（「外貨獲得」）も、ある程度活発



※住所無回答(n=6)のグラフは省略

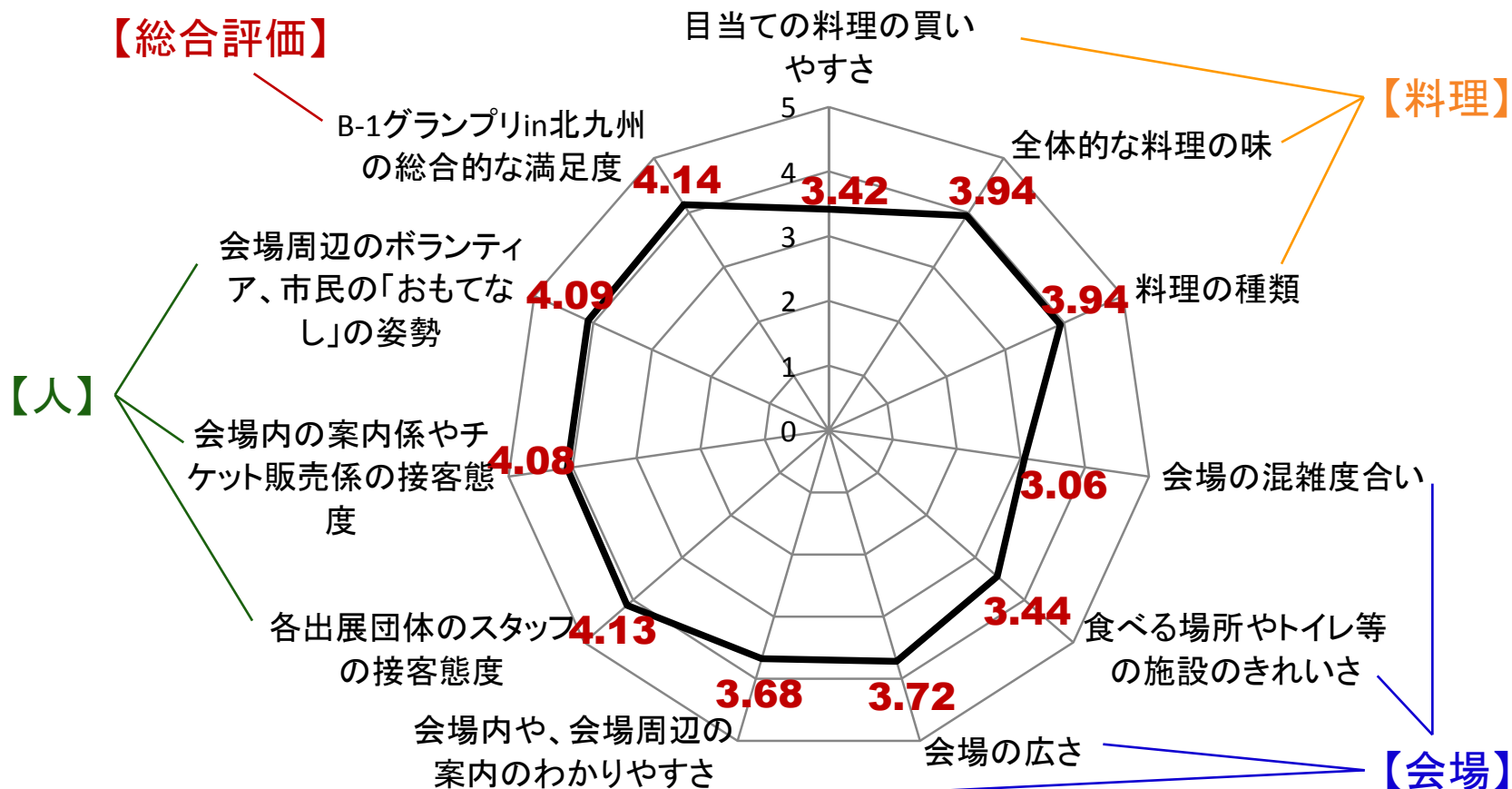
※買い物をした場所は複数回答可のため合計は100.0%とならない

ただし、観光・買い物先は小倉駅周辺が中心であり、市内一円への拡がりはない → 今後の課題

※門司港でさえ少数（ただし具体的活動場所無記入の回答多数のため参考程度）

③ B-1 グランプリ in 北九州に対する評価

11評価項目について、5段階評価を求めた結果（5点満点中の平均点）。

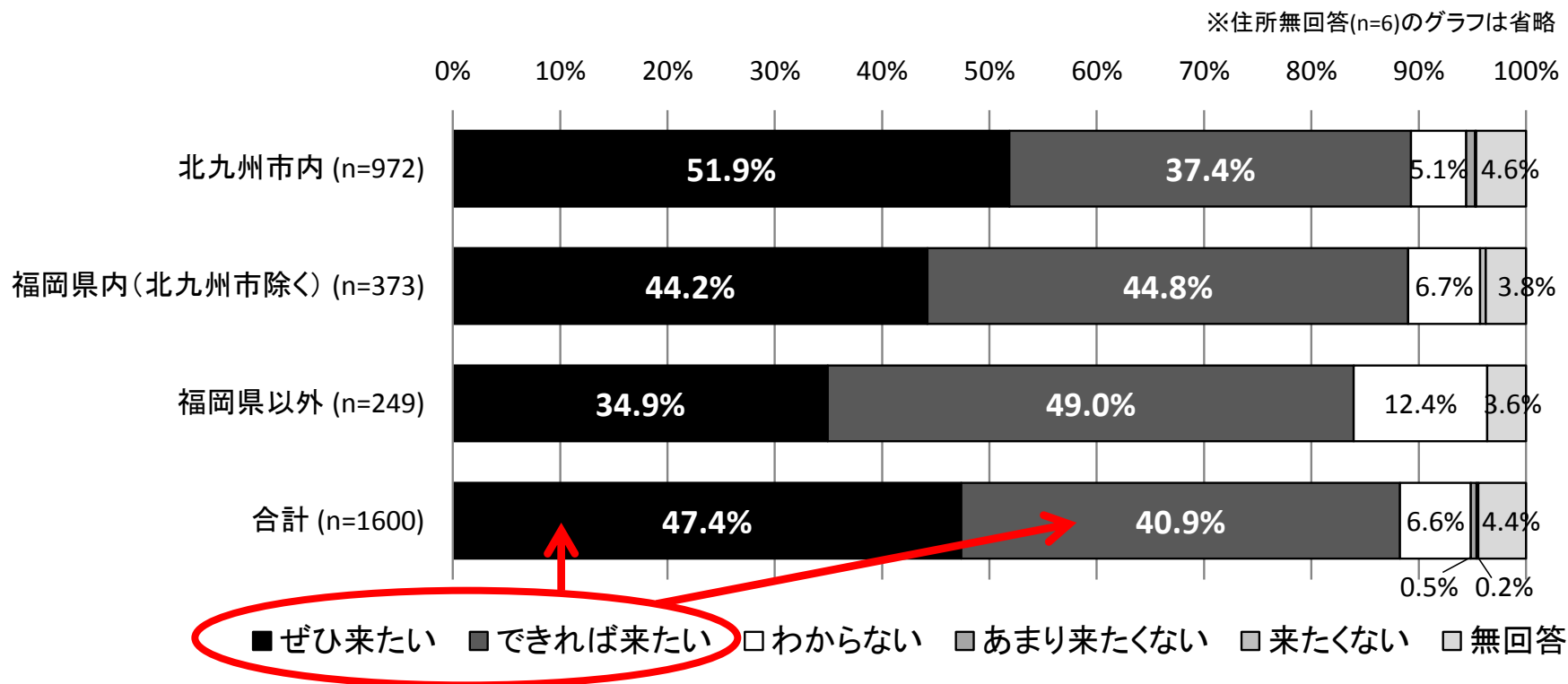


n=1,600

※「とても良い」5点、「良い」4点、「普通」3点、「悪い」2点、「とても悪い」1点として算出。

- 主催者にとって来場者の満足度は大会を評価する際の最重要の要素の一つ
 - 総合的な満足度、運営に関わる人に対する評価、料理に対する評価がいずれも高い結果
 - **「B-1グランプリ in 北九州は成功」と評価可能**
- 運営に関わった人々や北九州市民のホスピタリティに係る事項への評価（人への評価）が高かった点
 - **北九州市民の持つ潜在力が発揮**された結果。今後の北九州市のまちづくりの大きな財産

④ 今後の北九州での「ご当地グルメ」イベントへの来場意欲



- 開催により、シティプロモーションの推進、市外の人々に対する北九州市のイメージアップという観点からも成果

これらの点から . . .

B-1 グランプリ in 北九州の開催は「成功した」と客観的に評価可能

- 北九州市の社会、経済の活性化に大きな効果。
しかし…
 - ・ 一過性のものとならない取り組みが必要
 - ・ 経済効果の一層の発揮には、市内で滞在型観光や飲食等の消費活動を促す仕組み強化が重要
(下関市など周辺市町村との広域連携の強化も必要)

(2) 開催に伴う北九州市内への経済波及効果

① 推計対象とする経済活動

推計に含む 経済活動	1) 「B-1グランプリin北九州」開催に伴う、北九州市内での直接的な経済活動（直接効果） ① 来場者による、北九州市内での消費活動 ② 主催者・出展団体による、北九州市内での調達活動等 2) 直接効果に伴う北九州市内での間接効果（波及効果） ○ 一般的な例を踏まえ、二次波及効果まで推計。 ※ 1) + 2) = 「北九州市内での経済波及効果」
(参考) 推計に含まない 経済活動	・ 開催に伴う広告効果 ・ 北九州のご当地グルメを食べる事を目的として、B-1グランプリin北九州開催時期以外に北九州を訪れた人の飲食・観光行為等による経済効果 ・ その他、B-1グランプリin北九州開催に伴う北九州市外における経済効果

② 推計手法

- ・ 直接的な消費額を推定し、それを産業部門別に振り分け、産業連関表（北九州市産業連関表（平成17年表））に投入

③ 直接効果について

・ 推計手法

項目 (いずれも北九州市内での支出)		推計方法	推計に使用する平均消費額、人数			適用する産業部門
			日帰り等	市外宿泊	市内宿泊	
① 来場者による、北九州市内での消費活動	会場内での飲食・土産購入費のうち、北九州市内での経済効果試算対象となる費用	大会の実績値データ(売上高など)をもとに概算。ドリンクブース、「魅力発信!北九州フェア」参加団体売上などが対象。 ※売上の中から全国各地の出展団体に材料費等として支払われる費用は計算対象から除外。				商業(50%)、対個人サービス(50%)
	会場外での飲食費	アンケートから求めた平均消費額×来場者数 ※来場者数に関しては宿泊有無で区分。以下同様				対個人サービス
	会場外での土産購入費	アンケートから求めた平均消費額×来場者数	186円×559000人	1240円×10000人	524円×41000人	対個人サービス
	会場外での観光施設入場料等	アンケートから求めた平均消費額×来場者数	76円×559000人	1468円×10000人	688円×41000人	対個人サービス
	市内支出の交通費	アンケートから求めた平均消費額×来場者数	502円×559000人	9848円×10000人	4142円×41000人	運輸
	宿泊費	アンケートから求めた平均消費額×市内有料宿泊者数 ※市内宿泊者のうち有料宿泊者15,000人と推定	—	—	9470円×15000人	対個人サービス
② 主催者・出展団体による、北九州市内での調達活動等	主催者調達費(印刷)	B-1グランプリin北九州実行委員会事務局から提供を受けた実績値を使用。 ※ 北九州市内の企業に発注した調達(委託含む)費用を対象				その他の製造工業製品
	主催者調達費(建設)					建設
	主催者調達費(商業)					商業
	主催者調達費(不動産)					不動産
	主催者調達費(運輸)					運輸
	主催者調達費(対事業所サービス)					対事業所サービス
	主催者調達費(対個人サービス)					対個人サービス
	主催者調達費(情報通信、電力・ガスなど)					※各詳細費目に従い配分
	出展団体調達費(食材)					農林水産業(50%)、商業(50%)
	出展団体調達費(機材等)					対事業所サービス
	出展団体滞在費用(宿泊費)	北九州市観光動態調査(平成23年次)報告書における、平均宿泊費×宿泊者数(実績、延べ数)	—	—	7975円×3819人	対個人サービス
	出展団体滞在費用(飲食費)	北九州市観光動態調査(平成23年次)報告書における、平均飲食費×出展者数(推定、延べ数)	3714円×5212人			対個人サービス
北九州市への直接効果額 計		上記の合計				

- 直接効果額の推計結果

B-1 グランプリin北九州開催に伴う北九州市内への直接効果額の合計金額は、約16.6億円と推計できる。

項目		金額 (百万円)	内訳 (百万円)		
			日帰り客等	市外宿泊客	市内宿泊客
①	来場者による、北九州市内での消費活動	1,478.6	-	-	-
	会場内での飲食・土産購入費のうち、北九州市内での経済効果試算対象となる費用	43.5	-	-	-
	会場外での飲食費	520.9	376.77	24.40	119.72
	会場外での土産購入費	137.9	103.97	12.40	21.48
	会場外での観光施設入場料等	85.4	42.48	14.68	28.21
	市内支出の交通費	548.9	280.62	98.48	169.82
	宿泊費	142.1	0.00	0.00	142.05
②	主催者・出展団体による、北九州市内での調達活動等	181.6			
	主催者調達費(印刷、会場設営など)	118.9			
	出展団体調達費(食材、機材等)	12.9			
	出展団体滞在費用(宿泊費、飲食費)	49.8			
①+②	北九州市への直接効果額 計	1,660.2			

④ 波及効果について

- 直接効果額約16.6億円について、産業分類を行って「北九州市産業連関表（平成17年表）」の34部門表に投入し、経済波及効果額を推計。
- B-1 グランプリin北九州開催に伴う北九州市内への経済波及効果額の推計結果は、約26.5億円となる。**

項目	金額 (百万円)
直接効果額	1,660
一次波及効果	646
二次波及効果	344
経済波及効果額	2,651
(参考) 波及効果倍率	1.60

※ 経済波及効果額／直接効果額

※ 波及効果額に関する備考

- 本研究においては北九州市における経済波及効果に限定して推計しており、福岡県全体、あるいは隣接する下関市を含めた関門地域等としての経済波及効果額は推計していない。さらに全国的な経済効果等についても推計していない。
- 北九州市外での経済波及効果も含めると、本研究で推計した北九州市内での経済波及効果額約26.5億円より、多額にのぼる。

(参考) 姫路大会と北九州大会の経済波及効果額等の比較

大会名	推計範囲	①	②	①/②	各範囲から域内来場者比率(アンケート結果)
		B-1グランプリ開催 経済波及効果額 推計結果(億円)	各範囲の域内総生産 (億円)	B-1経済波及効果額が 域内総生産に占める比率	
2011年 姫路	兵庫県	40.7	178,259	0.02%	42% (姫路市除く)
	姫路市	16.4	19,870	0.08%	31%
2012年 北九州	北九州市	26.5	34,670	0.08%	60.8%

注) 姫路大会の推計結果はいずれも兵庫県立大学・秋吉一郎教授の推計による。

各範囲の域内総生産額は、いずれも平成21年度の名目額。

姫路大会と北九州大会では、推計対象とした経済活動の種類は一部異なっている。

⑤ 経済波及効果推計のまとめ

- **B-1グランプリ in 北九州の事業規模は約3億円(うち約2億円分の収入はイベントチケット販売額)であることを勘案しても、B-1グランプリ in 北九州の開催は、地域経済の活性化に成果があったと評価できる。**

3. ギラヴァンツ北九州の集客に関する研究（2012年度）



北九州市立大学都市政策研究所の実施している ギラヴァンツ北九州関連研究について

Jクラブが社会に及ぼす 効果等の分析

■ 経済波及効果の算出
(2008年度)

■ 先進事例の収集分析
(2009年度～)

人々の意識、集客実態 等の把握・分析

■ スタジアム観戦者調査
【ギラヴァンツに関心のある人を
中心とした調査】
(2010年度～)

※ Jリーグとの共同(受託)研究

■ 北九州市民意識調査
【ギラヴァンツに関心の無い
人も含む調査】
(2009、2011、2012年度)

※ 調査実施は2010年2月、2012年2月、
2013年3月

社会貢献活動等

■ シンポジウム開催
(2009年度)

■ 激励会開催
「ギラヴァンツ北九州を支援する
市民会議」を構成
(2010年度～)

■ 関連展示支援等
(2010年度～)

今後も様々な形で関連研究等に取り組む予定

(1) スタジアム観戦者調査 (2012年10月実施)

① 目的、方法

- 目的： ギラヴァンツ北九州の試合をスタジアムで実際に観戦している観戦者の特性や意識等について基礎的な分析及び考察を行うこと。
- 方法： 公益社団法人日本プロサッカーリーグ（Ｊリーグ）が全クラブを対象に毎年行っている「スタジアム観戦者調査」の2012年分の実施にあたり、筆者が実査協力者として参画する機会に合わせ、独自の設問を追加する形で実施。

調査日時	2012年10月7日（日） 11:00～13:00（回収終了）
調査場所	北九州市立本城陸上競技場（北九州市八幡西区御開4-16-1）
対象試合概要	2012 J2リーグ第37節 ギラヴァンツ北九州 対 松本山雅F C ホーム：ギラヴァンツ北九州 試合開始時間： 13:03 入場（観戦）者数：3,292人 天候：晴 気温：24.2℃
調査方法	訪問留め置き法（無作為抽出となるよう努め、事前抽出した座席に着座した観戦者に回答を依頼し、約30分後に再訪問して回収）
調査対象	スタジアムに観戦に訪れた11歳以上の観戦者個人。調査対象とする座席はスタジアム全ゾーン（アウェイ応援席も含む）。
配布回収概要	配布数577、有効回収数571（有効回収率99.0%） ※入場者の17.3%相当

※全クラブ共通設問の結果については、Jリーグ公式サイト
で公開されている。

<http://www.j-league.or.jp/aboutj/document/spectator-survey.html>

Jリーグ スタジアム観戦者調査 2012 サマリーレポート

J-LEAGUE FAN SURVEY 2012 SUMMARY REPORT

Survey Design

調査の概要

調査時期	2012年4月30日～10月7日
調査対象	スタジアム観戦者、11歳以上男女個人
調査方法	スタジアム内における集合配布法を用いた質問紙調査法
回収状況	有効回収数 16,645票 (J1:7,464票 J2:9,181票)
協力	筑波大学体育系准教授 仲澤 眞
	早稲田大学スポーツ科学学術院教授 原田 宗彦
	大阪体育大学大学院スポーツ科学研究科教授 藤本 淳也
	筑波大学体育系准教授 高橋 義雄
実査協力	東日本国際大学特任講師 岩村 聡
	仙台大学スポーツ科学研究科准教授 永田 秀隆
	新潟経営大学スポーツマネジメント学科准教授 福田 拓哉
	日本福祉大学客員准教授 荒深 裕規
	岐阜経済大学経営学部准教授 大野 貴司
	びわこ成蹊スポーツ大学スポーツビジネスコース講師 吉田 政幸
	岡山大学スポーツ教育センター助教 高岡 敦史
	徳島大学大学院ソシオアートアンドサイエンス研究部准教授 行實 鉄平
	北九州市立大学都市政策研究所准教授 南 博
	鹿屋体育大学スポーツ人文・応用社会科学系講師 隅野 美砂輝
	日本文理大学経営経済学部スポーツビジネスコース准教授 竹田 隆行

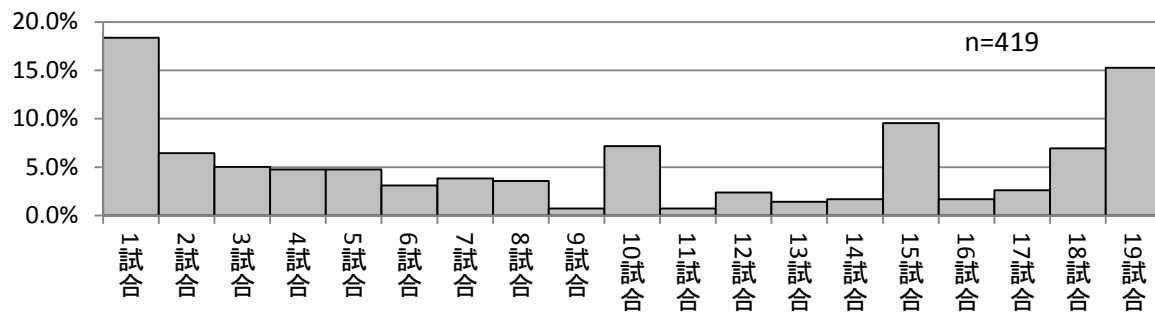
Survey Design

調査

スポーツで、もっと、幸せな国へ Jリーグ百年構想

① 回答者の属性（うち、ギラヴァンツ応援者）

- 男性 7 割、女性 3 割
- 平均年齢
2010年) 42.5歳 → 2011年) 42.6歳 → 2012年) 43.7歳
- 8 割が北九州市民。本城に近い区の居住者が多い。
- ギラヴァンツが J リーグに加盟して応援をはじめた人が 7 割。2 割が J F L 時代、1 割が九州リーグから。
- 2012年のホーム試合観戦数（19/21試合開催時点）

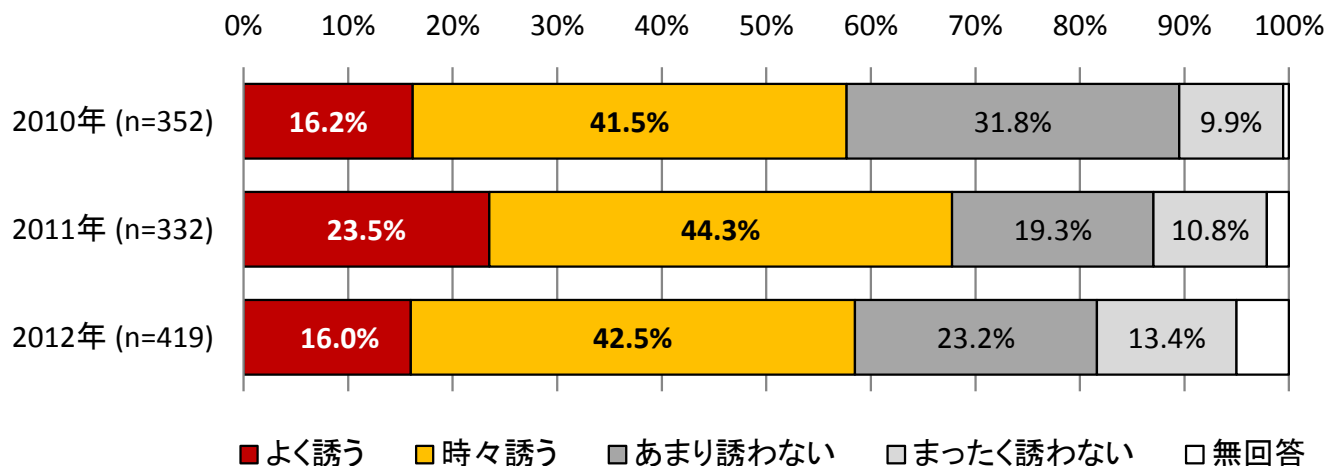


→ 「ライト層」が薄い

- チケット入手方法： 「チケットをもらった」 人がJクラブ中、最多。

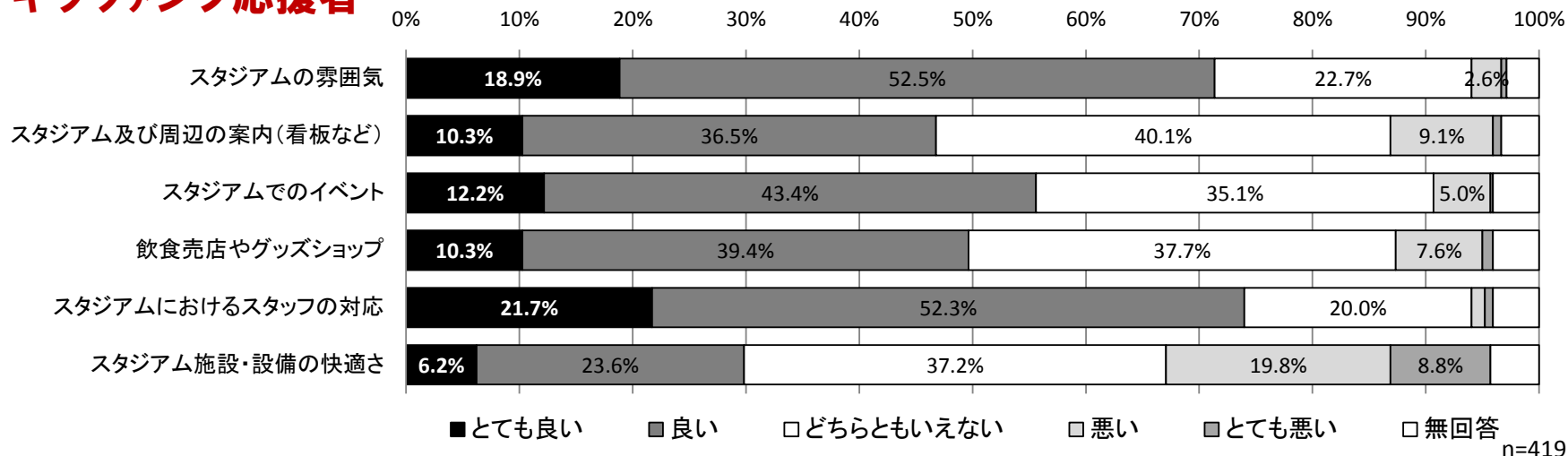
→ 入場者の1 / 3は招待券、1 / 3はシーズンチケット、残り1 / 3が前売り券・当日券購入者

- 本城までの平均所要時間は約40分（毎年変化なし）
- 約7割が乗用車で来場（本城 or 若松競艇場臨時駐車場）
- Jリーグ観戦に**周囲の人を誘う人は2012年に減少**

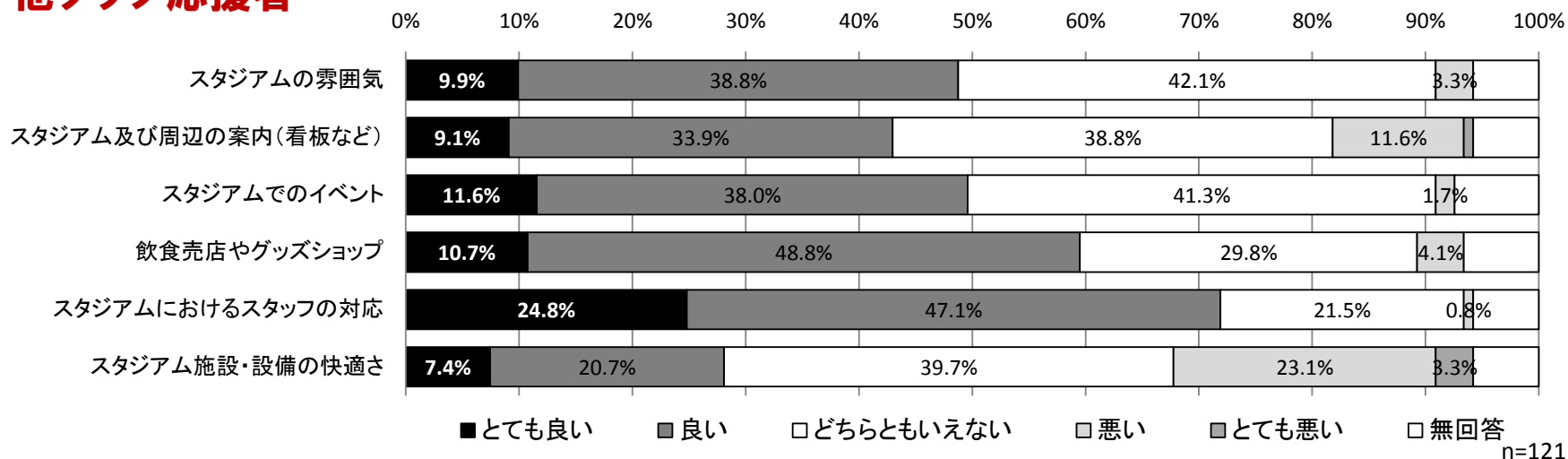


② スタジアム（本城）、イベントへの評価

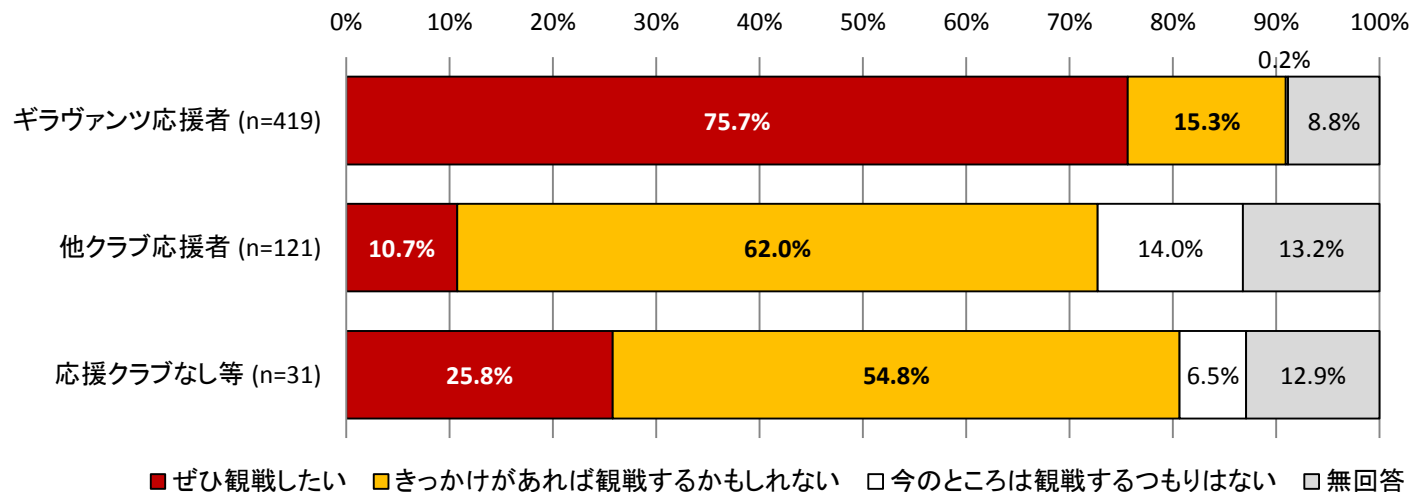
ギラヴァンツ応援者



他クラブ応援者

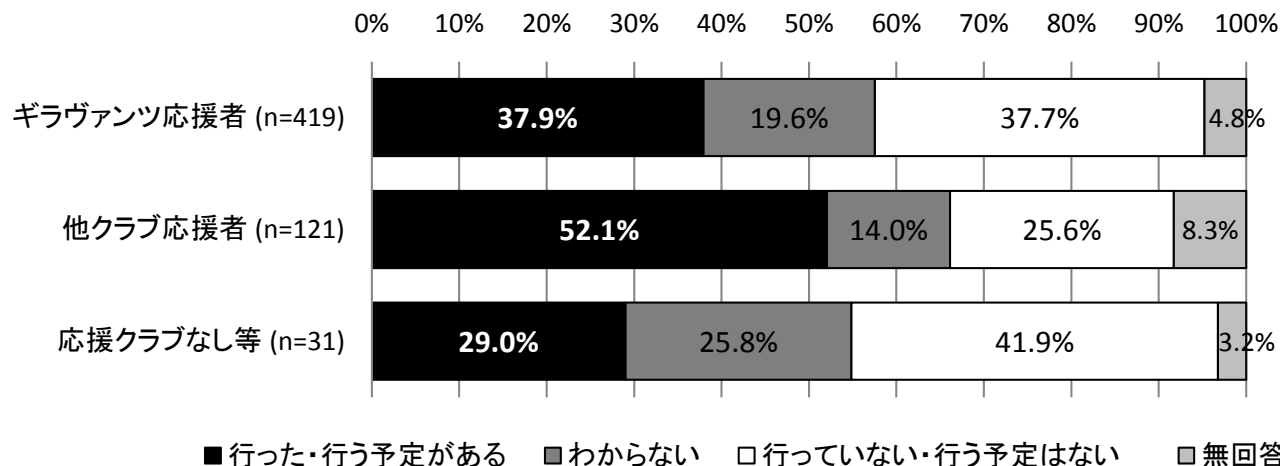


③ 今後のギラヴァンツの試合の観戦意向



④ 試合観戦前後の北九州市内での経済活動

※本城陸上競技場での消費は除く



⑤ 小倉駅そばの新球技場で観戦する場合の交通手段

本城での現状との比較

	本城 への手段	新球技場 への手段	ポイント差
徒歩、自転車	10.0%	7.2%	-2.9
乗用車・オートバイ	68.3%	22.2%	-46.1
JR・モノレール	8.6%	52.5%	43.9
その他の交通手段	7.6%	10.0%	2.4
わからない、無回答	5.5%	8.1%	2.6

※設問において、「球技場には一般用駐車場は設けられない見込み」旨を明示

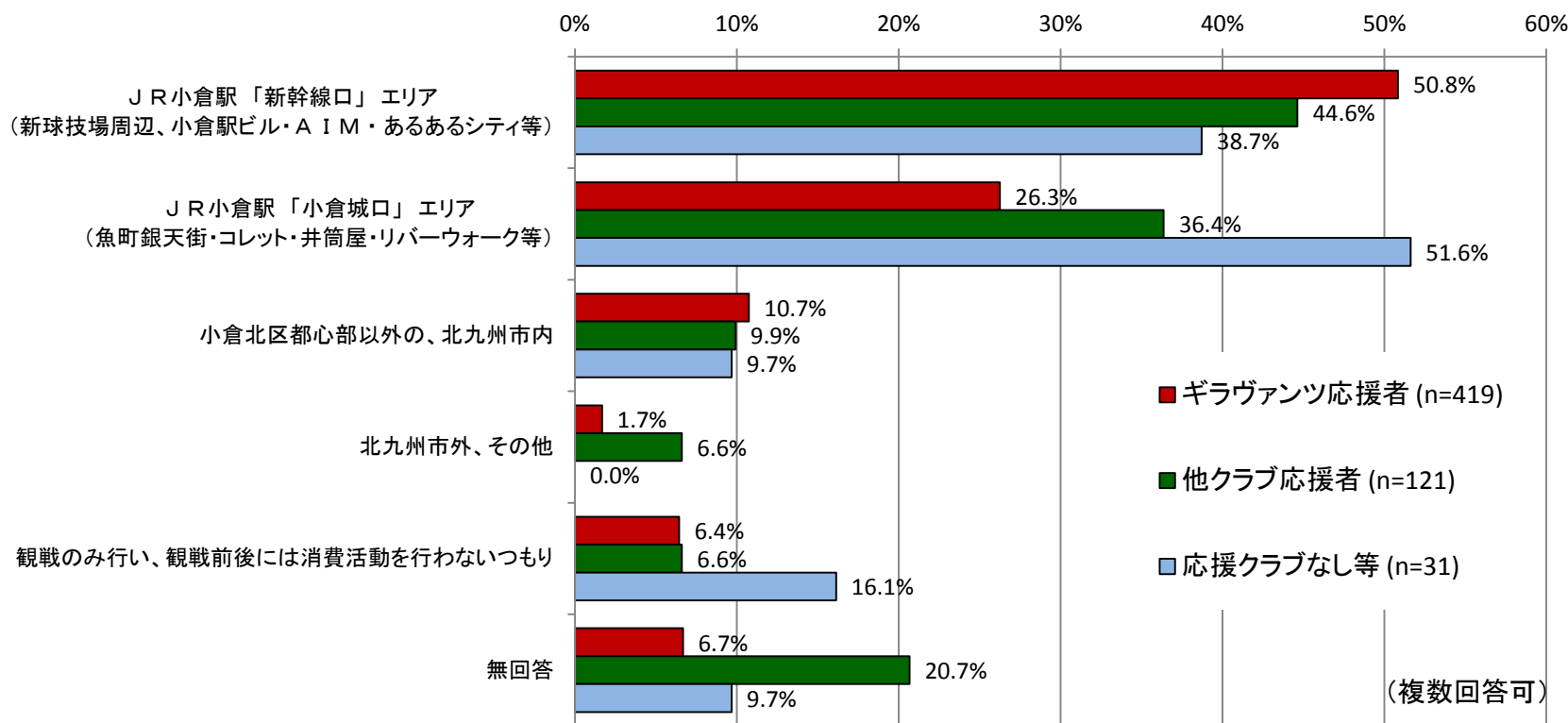
乗用車利用が減少すると・・・

■環境負荷の軽減

■経済活動の活発化

・飲酒が可能 ・移動時の「ついで買い・飲食」誘発

⑥ 小倉駅そばの新球技場で観戦する前後に 買い物・飲食等を行うと予想する場所



■観戦前後の消費活動への意識は高い

■小倉駅の南側での活動意欲も高い

→ この意欲を活かすよう、回遊しやすい仕組みを構築することが必要

(2) 市民意識調査 (2013年3月実施)

目的

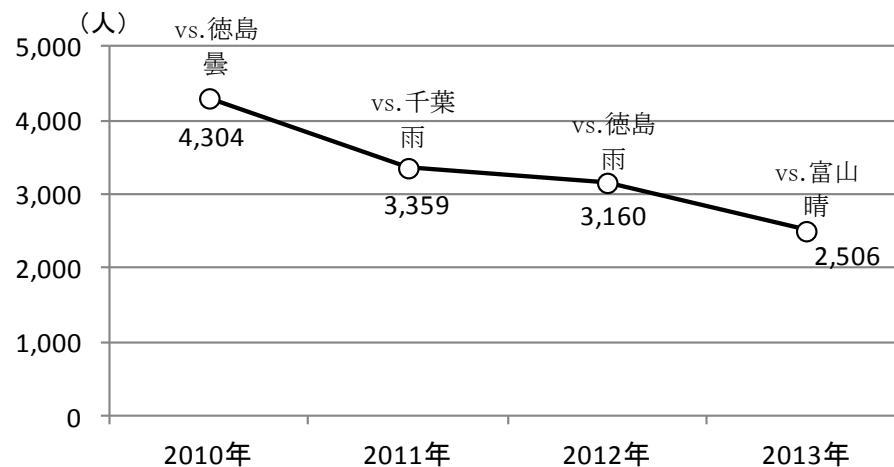
2013年シーズンの開幕戦の入場者数を踏まえ・・・

2013年3月におけるギラヴァンツ北九州に対する市民意識を把握するために実施

※ 北九州の開幕戦入場者数

調査方法

調査方法	インターネット調査
調査対象	北九州市に居住する18歳以上の市民のうち、(株)インテージが管理・利用する調査モニターへ登録している市民
実施期間	2013年3月25日(月)～3月27日(水)
有効回答数	1,468



注：インターネット調査を用いており、得られた結果が必ずしも一般的な北九州市民の意見の傾向と一致することが統計学的に証明されるものではない点に十分留意することが必要。

① 回答者の属性

- 性別、居住区などに大きな偏りなし。年齢についてはインターネット調査のため、実際の人口分布と比較すると高齢者が少ない（また、18歳未満は調査対象外）。

② Jリーグで応援しているクラブ

Jリーグで応援しているクラブ	回答者数	構成比
合計	1,468	100.0%
ギラヴァンツ北九州のみ	269	18.3%
アビスパ福岡のみ	11	0.7%
ギラヴァンツ北九州とアビスパ福岡の両方 (両クラブに加えて他クラブを応援している場合を含む)	137	9.3%
ギラヴァンツ北九州と他クラブ (アビスパ福岡以外。複数可)	35	2.4%
その他のクラブ	59	4.0%
応援しているクラブは無い	957	65.2%

ギラヴァンツ応援者 計

30.0%

③ ギラヴァンツの認知度

- ギラヴァンツを認識している市民は9割。(2012年2月時点と同じ)

認知度	回答者数	構成比
合計	1,468	100.0%
「ギラヴァンツ北九州」、「ニューウェーブ北九州」の両方を知っている	750	51.1%
「ギラヴァンツ北九州」は知っているが、「ニューウェーブ北九州」は知らなかった	562	38.3%
「ニューウェーブ北九州」は知っているが、「ギラヴァンツ北九州」は知らなかった	8	0.5%
どちらとも知らなかった	148	10.1%

ギラヴァンツを認識

89.4%

④ ギラヴァンツの試合のスタジアム観戦経験

- 観戦経験者は1割強。(従来の調査より微増)

スタジアム観戦経験	回答者数	構成比
合計	1,320	100.0%
スタジアムで観戦したことがある	183	13.9%
スタジアムで観戦したことはない	1,137	86.1%

※母数を総サンプル数
1,468とした場合の構成比

↓

12.5%

⑤ スタジアム観戦の回数変化（2011→2012）

- 観戦経験のある人について、一昨年と昨年の観戦回数を尋ねたところ、「減少」している人が多いわけではない。

2011年と比較し、2012年の回数が減少	15.8%
変化無し	59.6%
2012年の方が増加	24.6%

n=183

- つまり、2012年シーズンの入場者数減は「新規来場者」の取り込み不足が大きな要因と推測。

参考 ギラヴァンツ北九州の一試合あたり平均入場者数の推移（人）

	2010年	2011年	2012年
J2平均	6,696	6,423	5,805
ギラヴァンツ北九州	4,189	4,051	3,346

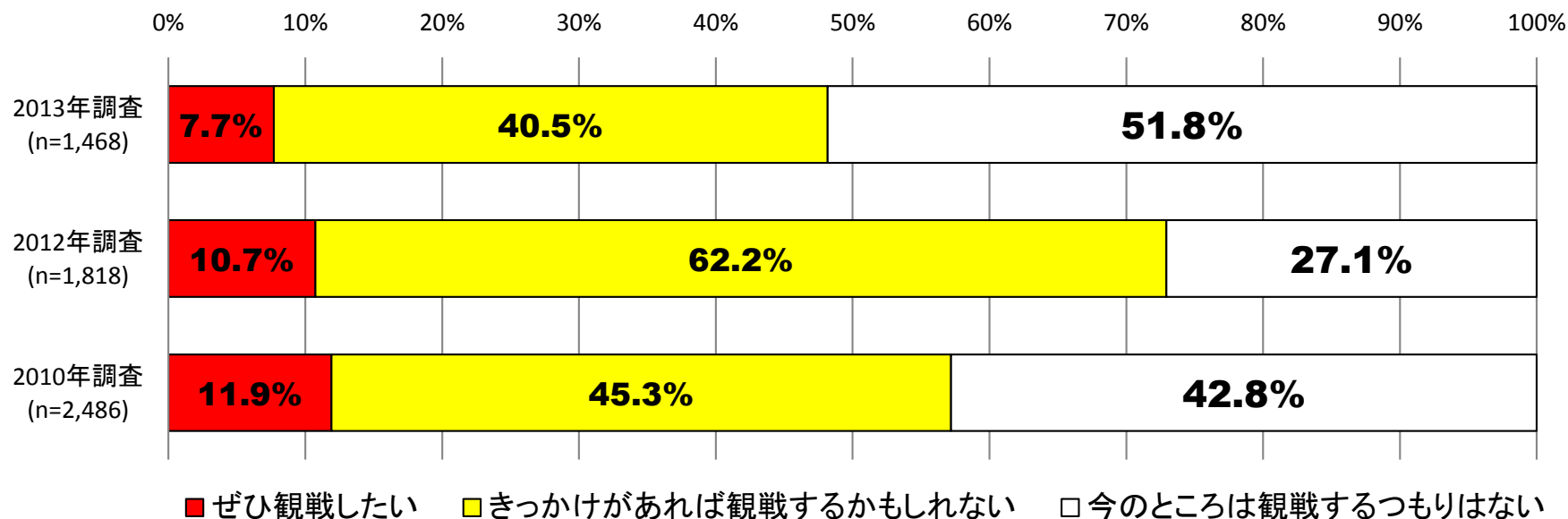
⑥ 観戦回数「減」あるいは「変わらない」理由

自由回答の分類結果 (n=99)	構成比
スケジュールの都合 (仕事、家事、各種行事などとの重複。忙しくなった等)	23.2%
ギラヴァンツ北九州のサッカーの内容や勝敗。観戦してのおもしろさ。チームの強さ	15.2%
もともと、あまり興味はなかった	12.1%
スタジアムの交通の便の悪さ	10.1%
招待券をもらう機会の減少。あるいはチケット料金の問題	8.1%
ギラヴァンツ北九州、あるいはサッカーへの興味の減退	7.1%
一緒に行く人がいなくなった	7.1%
たまたまそうなった	4.0%
対戦相手の問題	4.0%
健康上の理由	3.0%
その他	6.1%

⑦ 今後のギラヴァンツの試合のスタジアム観戦意向

- 2012年2月調査と2013年3月調査を比較すると、

「今のところ観戦するつもりはない」が急増



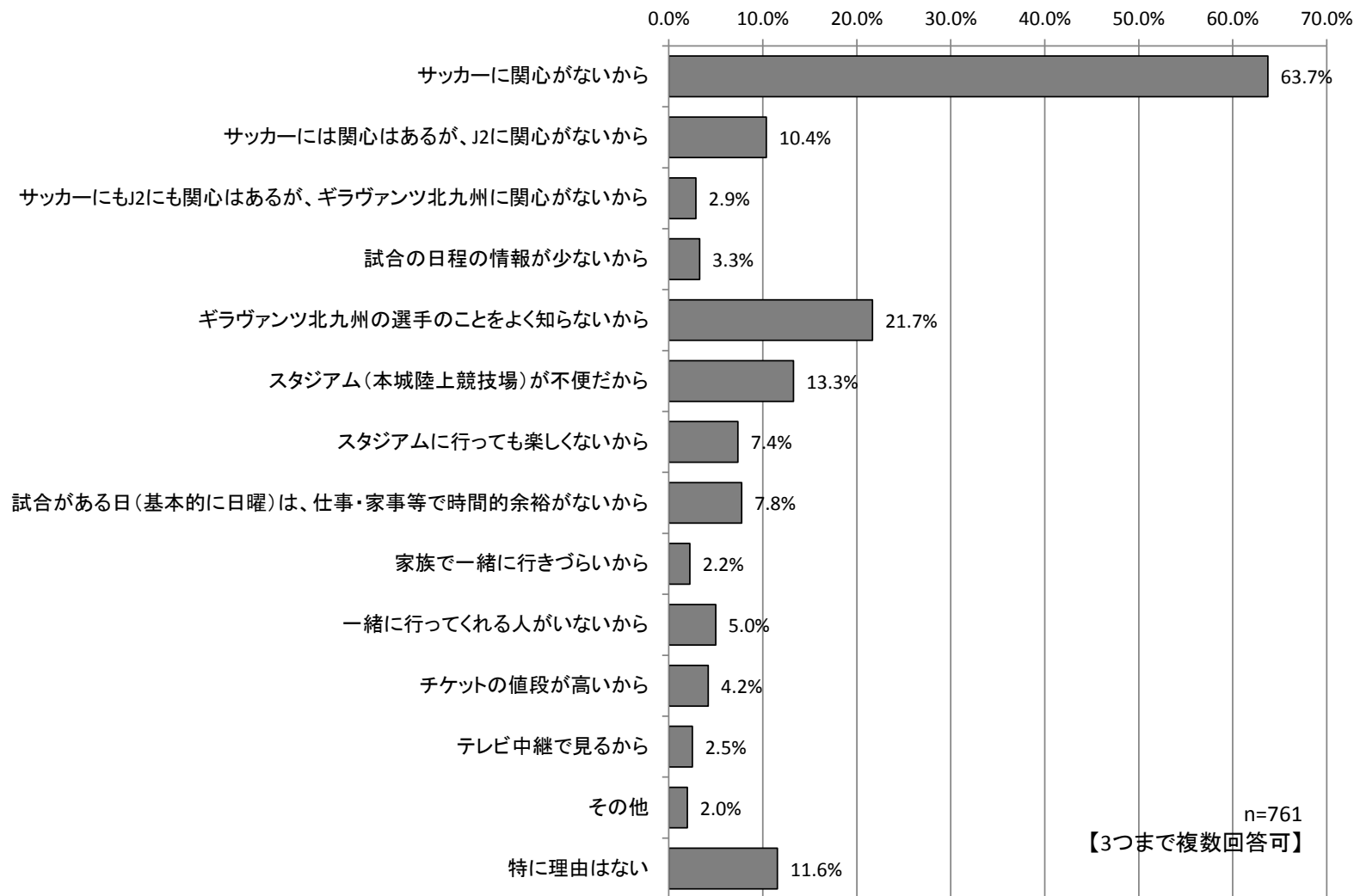
2012年に生じた環境変化

- ・クラブライセンス制度問題
- ・監督交代、選手大幅交代 など

その他、推定される環境変化

- ・3年経過し、「飽き」が生じた
- ・地域への浸透の不足 など

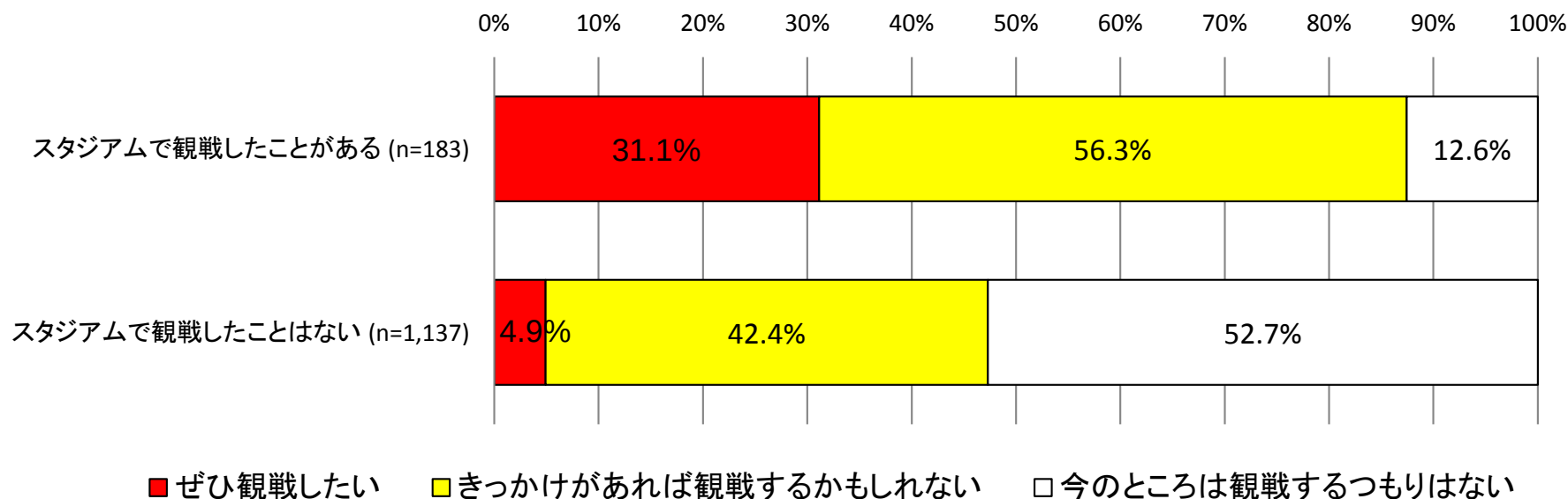
⑧ 「観戦するつもりはない」人に対する質問 「観戦するつもりはない」と考える理由



※⑦の補足

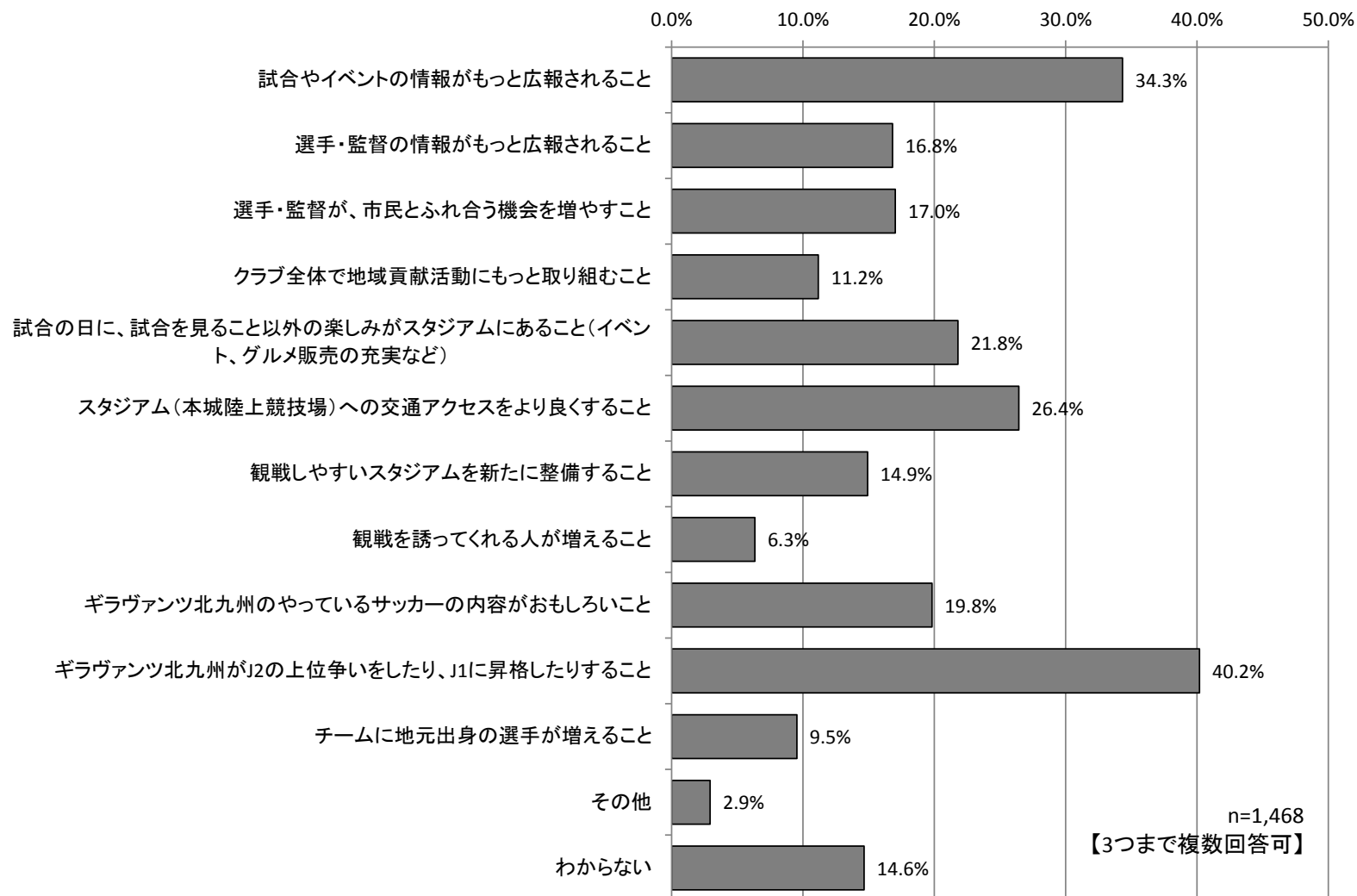
**今まで観戦経験の無い市民でも、
「ぜひ観戦」「きっかけがあれば観戦」が約半数**

→ 新規の観戦者の拡大余地は大いにある



⑨ ギラヴァンツの試合を観戦する人を増やすために必要だと考えること

- 幅広い取り組みが必要と考えられている。



⑩ 試合情報の告知について、自分自身にとって入手しやすいと感じる方法

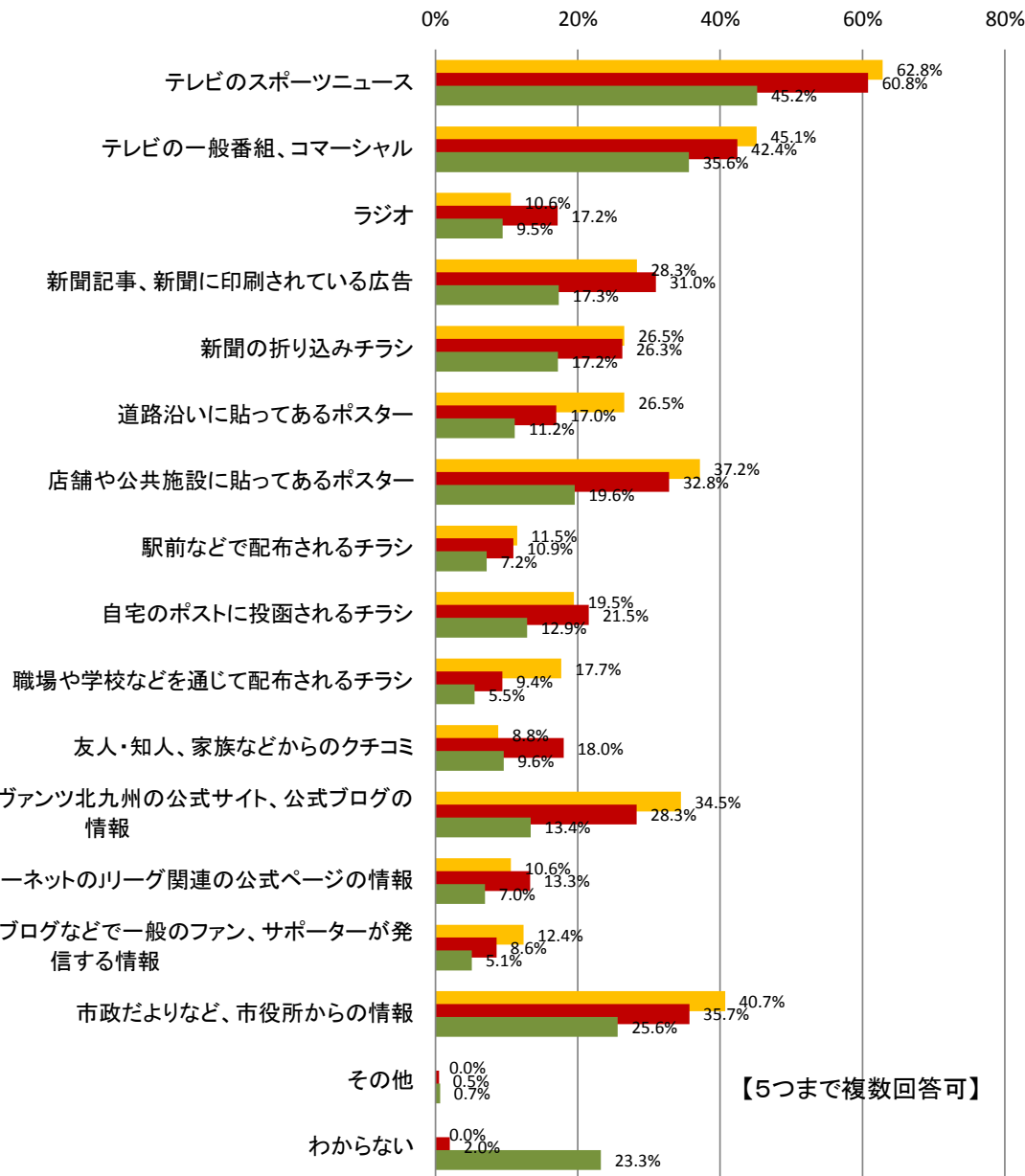
マスメディア

ポスター・チラシ

クチコミ

ネット

役所



【5つまで複数回答可】

- ぜひスタジアムで観戦したい (n=113)
- きっかけがあればスタジアムで観戦するかもしれない (n=594)
- 今のところはスタジアムで観戦するつもりはない (n=761)

4. おわりに

- 「まちのにぎわいづくり」に向け、北九州市は大きなポテンシャルを有している。
 - B-1グランプリでは、そのポテンシャルのうち、「人」、「インフラ」、「運営に関する総合力」などが機能し、高評価
- しかしながら、経済効果の一層の発揮等に向けては課題が残る。
- ギラヴァンツ北九州については集客増につながる余地は大きい
が、現在、集客面でやや「危険な状態」に陥っている可能性。
 - 地域の総合力を活かし、打開する事が必要であり、そのポテンシャルは有していると考える。
- より効果的な「まちのにぎわいづくり」に向け、総合的な取り組みが求められる。